

れんら君 + 昭和測器製 振動センサ

振動閾値設定

※メール設定サービスをご選択のお客様は弊社で本設定を行ってから出荷させていただきます。

- 測定したアナログ値が閾値を超えた時にメールを送信したい場合

下図の赤枠の箇所を下記のとおりを設定してください。

- ・「監視要因下限値」: 設定した値を下回ったときメール送信 (0~4095の整数)
- ・「監視要因上限値」: 設定した値を上回ったときメール送信(0~4095の整数)
- ・「上(下)限值変化回数入力」: 「監視要因上(下)限值」で設定した値をここに設定した回数上(下)回ったときメール送信
- ・「通知抑制時間」: 一度メール送信した後、設定した時間の間はメール送信を行わない (単位は「秒」で設定)

概要

ユニット定時動作条件設定

ユニット監視通報条件設定

ネットワークパラメータ設定

日時修正

E-Mailパラメータ設定

E-Mailテスト実行

機器保守情報設定

れんら君Mailモニタ

ユニット監視通報条件設定

各Analog ChannelのEvent生成監視情報を設定する
各Channelの「ユニット定時動作条件設定」で選択した平均化処理種別動作に対して測定値が

- ・ 下限値以下
- ・ 上限値以上
- ・ 上限値以上/下限値以下

の選択した監視条件の検出通報値とその検出回数を設定しておくことで監視要因成立時に登録しておいたEvent通知E-Mailがその都度発行される
未使用を選択すると監視は行わない

ユニット定時動作条件設定の監視条件通報動作実行可否の選択をチェックマークして測定値の平均化データを使用しながら上・下限値レベルを通報条件として設定する
「監視条件通報」動作の上・下限値レベルと検知リミット回数を設定する
(下記入力フィールドではスケール/レベル補正実行指定時は括弧付きでスケール変換された対応値を表示)

Channel mode: RAW DATA
監視Analog Channel選択: Channel00

監視要因選択: 上限値以上
(マウスカーソルを監視要因選択強調文字上でシングルクリックさせると詳細を表示/非表示)

監視要因下限値 (スケール/レベル補正実行指定時は括弧付きで対応換算値が表示される)
下限値入力(0~4095): 0 (-25.0000 m/s²) 「1~4095」
(下限値を下回った入力値が通知対象: 「0」は常に条件成立)
下限値変化回数入力(0~65535): 0
(「0」は動作停止 変化回数: 「1~65535」設定変化回数以上で通知)

監視要因上限値 (スケール/レベル補正実行指定時は括弧付きで対応換算値が表示される)
上限値入力(0~4095): 2457 (50.0000 m/s²) 「1~4095」
(上限値を超えた入力値が通知対象: 「0」は常に条件成立)
上限値変化回数入力(0~65535): 1
(「0」は動作停止 変化回数: 「1~65535」設定変化回数以上で通知)

通知抑制時間 (0: 抑制無し)
抑制時間「1~65535」入力: 単位「秒」 180
(条件成立通知後に通知動作を停止する時間でのこの間の成立条件は破棄)

上図の例では、「振動センサの測定値が 50m/s² を 1 回上回ったらメール送信を行い、その後 3 分間はメール送信を行わない。」という設定です。

50m/s²=2457の求め方は、資料『変換設定』に記載されているスケール可否選択で設定した-25~100[m/s²]が0~4096の数値と対応付けられるので、

$4096 \div \{100 - (-25)\} \times \{50 - (-25)\} \doteq 2457$

となります。メールを送信したい条件に合わせて適切な設定を行ってください。

続いて、ページ下部の「監視Event成立時発行E-Mail登録」の文字をクリックすると、「E-Mail登録操作画面」が表示されます。各項目を設定してください。
「From」(メール送信者のアドレス)と「To」(メール送信先のアドレス)は必須項目ですので間違いのないように設定してください。



<注意>

- ・ 設定を変更した場合、必ずページ下部の『SET』を押して変更を保存してください。
その後れんら君に変更を反映させるために『機器保守情報設定』画面の『Reboot』ボタンを押してください。
- ・ この設定は、UNC-RP41A1 (0~20mA入力仕様アナログれんら君)とMODEL-2502-01 (昭和測器製振動センサ)の例です。その他の仕様の製品を使用される場合は、製品の仕様書をよく読み適切な設定を行ってください。